

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	矢内 淑子
最終学歴	学 位	専門分野
国立音楽大学院音楽研究科声楽専攻修士課程修了	修士 (芸術学)	声楽、音楽教育

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

本学の建学の精神である「真に信頼して事をまかせうる人格の育成」にあげられているように、責任感がある「真面目」に物事に取り組むことができる広い教養と深い専門知識を持った学生の育成を目指す。学生が子どもの音楽活動を支える音楽基礎能力を身に付けるべく、自ら主体的な学びができるようにする。

(計画)

「音楽基礎」「音楽」「音楽Ⅰ」では、保育・教育の基礎技能としてのピアノ演奏技術を習得するために、学生の進度に合わせた少人数による個別指導と音楽基礎理論（楽典）のクラス授業を併用して行うことで、音楽理解を深め、学生の意欲・向上に繋げる。「音楽表現技術」では、1年生で培った音楽的表現技術を確かなものにするだけでなく、ピアノを使用した子どもの歌の弾き歌い、歌唱を中心に学び、表現豊かな演奏ができるようにする。「音楽Ⅲ」は、1・2年生で習得した音楽表現能力をさらに高め、技術面だけでなく音楽的感性を高めることを目指す。「総合表現技術」は、表現科目「身体表現」「音楽表現」、「造形表現」担当の教員で行う。これまで個々の表現科目で学んだ知識・技術を統合して、表現活動に係る教材の活用と作成を通して、保育環境構成や遊びの展開のための実践を行う。

「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」では、学生が興味・関心持って臨めるように、個々の研究テーマに添った文献・論文を購読してまとめる。また、保育・教育の音楽教材研究を行い、児童を対象にした行事を計画、実施して実践力を付ける。「専門演習Ⅲ・Ⅳ」は、論文の作法について段階的に学びながら、個々に関心のあるテーマについて文献・論文を収集、調査・研究を行い、その成果を論文や制作として発表する。今年度より「サービスラーニング」の授業を担当することになった。教育現場での学生の様子を通して、プレ教育実習の役割、成果を見ていきたい。

○担当科目（前期・後期）

(前期)

音楽基礎、音楽Ⅰ、音楽Ⅲ、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、
専門演習Ⅲ

(後期)

音楽、音楽表現技術、総合表現技術（オムニバス）、サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、
専門演習Ⅱ
専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

「音楽基礎」「音楽」、再履修者クラス「音楽Ⅰ」では、目的・概要、到達目標を踏まえ、学生・教員間で授業記録を基に学びを確認しながら教員が模範演奏を演奏した後、学生が選曲する形で行った。その際、必要に応じて楽曲説明を行い、ある程度弾けた段階でイメージや音楽表現的な奏法について示すことで、学習意欲に繋げることができた。前半・後半 2 回クラス全員で互いの演奏を聴きあい、

自他の演奏の感想や課題を書き振り返ることで表現の本質の理解に繋がった。さらに、今年度開講した「音楽基礎」では、教員採用試験を想定した音楽基礎理論（楽典）のクラス授業とピアノレッスンの授業を45分交代制で行い、楽典授業内容もピアノレッスンと整合性を意識した内容で行うことで音楽の諸要素理解の上に立ったピアノ演奏力の育成に繋げることができた。「音楽Ⅲ」では、幼稚園実習期間と重なることを考慮して、前半は、園から提示された課題曲や学生が自選した子どもの弾き歌い、歌唱、音楽教材研究（手遊び・わらべ歌・絵描き歌他）を行った。特に、弾き歌いについては、楽曲理解の上に立った伴奏法を意識できるようにした。後半は、基礎的な楽器演奏や指揮法、保育現場の教員によるリトミック教育の理論・実践方法を学び、学生自身も音楽の諸要素・表現要素を感受できるような指導案を作成して、グループ毎に模擬保育を試みた。「音楽表現技術」は、保育所実習を控えていることを考慮して、1年で培ったピアノ演奏を確かなものにするだけでなく、子どもの弾き歌いと歌唱のレパートリーを増やし、表現豊かな弾き歌いができることを目標に行った。ピアノが苦手な学生には基本コード進行や簡易伴奏を示し徹底することで、レパートリーを増やし達成感が得られるようにした。「総合表現技術」は、身体表現・音楽表現・造形表現で学んだ知識や技術を総合して表現活動にかかる教材の活用・作成を通して、最終授業において近隣の幼稚園園児を招いて創作劇発表を行った。今回は特にテーマの重複にも注意してグループの独自性を大事にした結果、現代ならではの独創的な内容の劇発表会となった。実際に子どもたちを前に実践することで表現力・技術力の向上を図るとともに、学生の表現に関わる感性を豊かにし、最終的には「子どもの表現や豊かな感性の育ち」を引き出し支える保育に繋がり、総合表現科目の意義が達成できたと考える。

「基礎演習Ⅰ」では、学部行事としての大学祭キッズ広場への参加、「基礎演習Ⅱ」は、名東児童館と共催で行った「ハッピークリスマス会」の実施は、近隣の子どもたちを招いての行事として意義があるものとなり、学生にとって実り多い経験の場となった。特に後者は、例年2・3年演習授業で行っていたが、1年演習リーダーを中心に、サービスマーケティング・愛知東邦大学吹奏楽団の学生にも希望を募り、事前準備（計画表・実施チラシ・資料・プログラム・制作物・計画表等）、プログラム・内容（リズムあそび・絵本から飛び出せ、クリスマスツリー作成他）を検討して、実施することができた。「サービスマーケティング」では、小学校の運動会に引率、名東児童館・とだがわこどもランドとの調整を行った。前・後期履修の学生は回を重ねるごとに参加ノートの記載も充実し、最終発表も学生の成長が伺える内容となった。

○作成した教科書・教材

授業ごとに、授業記録表（授業内容・質問・練習時間・合否確認シート等）、子どものうた課題曲認定表等、伴奏法などのオリジナルの教材を作成している。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

「音楽基礎」「音楽」は、学生も前向きな学生が多く、挑戦したという気持ちを大事にしたことで、やる気を喚起することができた。出席率については1時限目に遅刻・欠席が多くなる傾向があり、自己学習時間については教員と学生間で格差があった。学生の意識を変えるべく関係教員と連携して指導にあたり改善していきたい。「音楽表現技術」は、子どもの弾き歌いを中心に行っているが、クラスの学生数や習熟度の違いによって均等な時間配分という点で公平を欠くことがあった。特に学生数の多いクラスでは一人当たりの時間が短くなり、指導内容を説明・指導したが、学生に十分伝わり切れていなかった。クラス人数の均等な配分のお願いするとともに、ピアノ・歌唱の得意・不得意、習熟度によって、やり方、伝え方を検討していきたい。リズムや音程等ソルフェージュ力に困難を来す学生には、教員がメロディーを弾きながら学生と一緒に繰り返し歌うことで、正確なリズムや音程で弾

き歌いができるようになり、レパートリーを増やすことに繋がった。「音楽Ⅲ」は、後半はリトミック教育の理論・実践方法、模擬授業の実践を経験した後指導案を作成して発表したが、模擬保育のやり方が教師指導型が大半で、発表内容が十分伝わり切れなかったことが分かった。次年度は十分検討して行いたい。久しぶりに1年生の「基礎演習ⅠⅡ」を担当した。最初は、学生によって行事に対する取り組み方に温度差がかなりあったが、徐々に仲間と協力して事を成す喜びを感じるようになり、一人一人がしっかり個々の役割を意識することで、最終的には個々の取り組み方が変わった。「専門演習ⅠⅡ」は、卒業論文・就職に向けて2点に絞って行った。論文は道筋を説明し、文献を読みテーマ概要をまとめる。就職合宿に向けて、自己振り返り・履歴書作成を行ったが、完成に至らなかった。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

1. 保育士・教員養成課程の表現科目に関する研究。
2. 保育士・教員養成課程における音楽授業研究
3. 演奏・指揮活動

○目標・計画

(目標)

1. 継続研究として、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法Ⅳ」と題して行う。ヴィゴツキーの最近領域を応用して、音楽表現、身体表現、音楽表現の3教科を受講して、学生が各教科の何を身に着けたか調査し、3教科の共感的要素を見つける。保育士・教員養成校の学生が、その表現科目を利用して表現力をのばすことのできる教材・環境は何かについてまとめる。
2. 「保育士・教員養成校における楽典指導～「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」のピアノ表現を深めるために～」の継続研究として行う。今回の成果と課題も踏まえ、ピアノ学習における楽典指導のあり方について検討し、効率的で魅力的、実用的なピアノ学習について検討する。
3. オペラ、演奏・指揮活動

(計画)

1. 音楽表現・造形表現・身体表現の担当者と共に、学生がそれぞれの授業を受講して何を身につけたかアンケート調査した結果を集計し、ヴィゴツキーの最近領域を応用して、音楽表現・造形表現・身体表現の共感的要素をまとめる。
2. 今回の成果としては、僅かではあるが読譜力の基礎理解、音楽的興味・意欲の向上、楽譜の理解を促すなど効果は見られたが、楽典の内容・個別レベルでの対応等に課題もある。そこで、今期の楽典の授業内容を検討・実施し、学生アンケートによる理解度を調査する。
3. 未定

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

(学術論文)

- ・ 矢内淑子・酒井国作「保育士・教員養成における楽典指導Ⅱ～「音楽Ⅰ」のピアノ表現をふかめるために～」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第48号第2号（2019年12月）
- ・ 矢内淑子・酒井国作・藤田桂子・夏目佳子・鷺見鶴子・久野明子「保育士・教員養成課程における楽典指導～「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」のピアノ表現を深めるために～」愛知東邦大学紀要『東邦学士』第47号第1号（2018年6月）
- ・ 古市久子・新實広記・矢内淑子・伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的感覚を使った教授法Ⅲ～造形表現の授業分析を通して～」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第46号第

1号 (2017年6月)

- ・古市久子・矢内淑子・伊藤数馬・新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的感覚を使った教授法Ⅱ～授業実践を通して～」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第45巻第2号(2016年12月)
- ・古市久子・矢内淑子・新實広記・伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法Ⅰー保育実践教科書を分析するー」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第44号第2号(2015年12月)
- ・矢内淑子・古市久子:「保育者養成機関におけるソルフェージュ力の育成」愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第44巻第1号(2015年6月)
- ・矢内淑子・古市久子:領域「表現」から教科「音楽」「体育」への連続性に関する課題の検討。愛知東邦大学紀要『東邦学誌』41巻第3号(2012年12月)

(学会発表)

- ・柴田好章・付洪雪・福島孝・中島淑子・鈴木稔子・近藤茂明・矢内淑子「子どもの発言を基に構成される授業分析(1)ー単元を通じた個の思想の変容過程との要因を中心にー、日本教育方法学会51回大会(2015年10月)
- ・矢内淑子・古市久子:「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成(Ⅲ)」日本保育学会第68回大会、椛山女学園大学(2015年5月)
- ・矢内淑子・古市久子:「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成(Ⅱ)」日本保育学会第67回大会、大阪総合保育大学・大阪城南女子短期大学(2014年5月)
- ・矢内淑子・古市久子:「リズム感を通じたソルフェージュ力の育成」日本保育学会第66回大会、中村学園大学・中村学園大学短期大学部(2013年5月)
- ・矢内淑子:「拍感の消失ー歌唱を通してー」日本保育学会第65回大会、東京家政大学(2012年5月)

(特許)

(その他)

<リサイタル>

- ・日本歌曲連続演奏会「矢内淑子メゾソプラノリサイタル～中田喜直の世界～」ピアノ:安田正昭、会場:岡山県立美術館ホール(2012年3月)

<オペラ>

- ・創作オペラ「忠臣蔵」戸田役。名古屋演奏家ソサエティー主催。作曲:森 彩音、指揮:濱津清仁、台本・演習:湊本晴都子。会場:名古屋市芸術創造センター(2018年12月22日・23日)
- ・【芸創コラボ】オペラ「藤戸」波の精役。名古屋二期会・名古屋市芸術創造センター連携企画公演。作曲:尾上和彦、原作:有吉佐和子、指揮:奥村哲也、演出:堀口文成。会場:名古屋市芸術創造センター(2018年3月3・4日)
- ・受け継がれゆく唄(日本民謡集～川口耕平による～)、編曲:川口耕平、指揮:小原恒久。会場:(2018年3月3・4日)
- ・名古屋ソサエティー35周年記念オペラジャパネスク「閻魔街道夢ん中」、おとよ役。作曲:森 彩音、台本・演出:湊本晴都子、指揮:高谷光信、主催:名古屋ソサエティー、会場:名古屋市芸術創造センター(2016年12月)
- ・創作オペラ「桜幻想」、母お静役。作曲:森 彩音、台本・演出:湊本晴都子、指揮:金丸克己、主催:名古屋ソサエティー、会場:名古屋市芸術創造センター(2015年5月)
- ・創作オペラ:「古事記～矢岐の大蛇～」、キクリ姫。作曲:森彩音、台本・演出:湊本晴都子、指

揮：高谷光信、主催：名古屋演奏家ソサエティー、会場：名古屋能楽堂（2014年2月）。

- ・創作オペラ「荒城の月」、廉太郎の母（まさ）役。作曲：森彩音、台本・演出：淵本晴都子、指揮：澤脇達晴、主催：名古屋演奏家ソサエティー、会場：名古屋市芸術創造センター（2012年12月）。

<演奏・研究発表>

- ・クリスマスコンサート。主催・会場：聖イエス会使徒教会（2008年～2019年12月）。
- ・全国大学音楽教育学会第34回全国大会、《仙台大会》研究演奏会出演。主催：全国大学音楽教育学会、会場：仙台ガーデンパレス。（2018年8月）
- ・歌の玉手箱～懐かしき家路へ～童謡の世界、～心に残る懐かしき愛唱歌～。主催：名古屋二期会、会場：しらかわホール（2011年9月～2012年9月、2013年11月、2015年11月～2017年11月、2018年8月）
- ・東日本大震災チャリティーコンサートに出演。主催：一般社団法人名古屋二期会、会場：電気文化会館ザ・コンサートホール。（2011年4月、2013年3月～2015年3月）
- ・総社芸術祭 2015P&B ジョイフル・コンサート～吉備から発信する日本の歌～。主催：総社市・総社市教育委員会・第2回総社芸術祭 2015 実行委員会、会場：総社市民会館（2015年5月）
- ・全国大学音楽教育学会第30回全国大会《東京大会》研究演奏会出演。主催：全国大学音楽教育学会、会場：音楽の友ホール。（2014年8月）。
- ・岡山混声合唱団第66回定期演奏会。「オペラコーラス・アラカルト」アルトソリスト。主催：岡山混声合唱団、会場：岡山市立市民文化ホール（2012年10月）
- ・愛光園創立20周年記念演奏会「Love&Brilliance」。主催・会場：(福) 鴻仁福祉会、特別養護老人ホーム（2012年6月）。

<審査・講評>

- ・第85回～86回 NHK 全国学校音楽コンクール愛媛県コンクール審査員。主催：NHK 松山放送局・全日本音楽教育研究会・日本教育音楽協会愛媛県支部、会場：松山市民会館大ホール（2018年8月～2019年8月）
- ・第76回～第85回 NHK 全国学校音楽コンクール岡山県大会審査員。主催：NHK 岡山放送局・全日本音楽教育研究会・日本教育音楽協会岡山県支部、会場：岡山市立市民文化ホール・岡山市建部文化センター（2010年8月～2018年8月）
- ・第43回・44回・第49回・50回、第51回、53回、岡山県学生音楽コンクール本選審査員。主催：岡山県高等学校音楽協議会、会場：くらしき作陽大学（2014年8月～2016年8月、2018年10月）
- ・第67回岡山県合唱コンクール審査員。主催：岡山県合唱連盟、朝日新聞、会場：岡山市立市民文化ホール（2014年8月）
- ・第67回岡山県合唱フェスティバル講評。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2014年6月）。

<指揮>

- ・アンコーラ The10thAnniversary Concert。主催：アンコーラ、会場：倉敷公民館（2019年10月）
- ・女声合唱団萌え木第4回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、会場：岡山県立美術館ホール（2017年10月）（2019年5月）
- ・第61回～第70回岡山県合唱フェスティバル。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2010年6月～2019年6月）
- ・第34回～第41回倉敷サマーコンサート。主催：倉敷市文化連盟・倉敷市合唱連盟、会場：倉敷アイビースクエア（2008年～2016年8月、2019年8月）

- ・第 34 回～第 44 回記念倉敷合唱フェスティバル。主催：倉敷市合唱連盟・倉敷市文化連盟。会場：倉敷芸文館、倉敷市民会館ホール（2010 年 12 月～2020 年 1 月）
- ・第 15 回おかやま県民文化祭参加事業、倉敷市 50 周年記念市民発案事業「コーラスふるさとを歌う」主催：倉敷文化連盟、コーラス「ふるさと」を歌う実行委員会、協賛：倉敷市、会場：倉敷市民会館（2017 年 11 月）
- ・女声合唱団萌え木第 3 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、会場：岡山県立美術館ホール（2017 年 10 月）
- ・瀬戸内混声合唱団第 17 回定期演奏会—チャレンジコンサート—主催：瀬戸内混声合唱団、共催：倉敷市文化連盟、会場：児島市民交流センタージーンズホール（2017 年 5 月）
- ・女声合唱団萌え木第 2 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、共催：倉敷市文化連盟、会場：岡山県立美術館ホール（2016 年 1 月）
- ・倉敷市東公民館文化展コンサート。主催・会場：倉敷東公民館（2009 年 11 月～2015 年 11 月）
- ・第 13 回サンセットフェスタ in こじま。主催：サンセットフェスタ in こじま実行委員会、会場：鷲羽山第二展望台（2015 年 9 月）
- ・瀬戸内混声合唱団創立 30 周年記念演奏会。主催：瀬戸内混声合唱団、会場：倉敷市児島文化センター（2015 年 1 月）
- ・女声コーラスアンコーラ The10thAnniversary Concert。主催：女声コーラスアンコーラ、会場：倉敷市立美術館ホール（2014 年 9 月）
- ・女声合唱団萌え木第 1 回定期演奏会。主催：女声合唱団萌え木、会場：岡山県立美術館ホール（2014 年 4 月）
- ・岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテスト。主催：岡山県合唱連盟、会場：岡山シンフォニーホール（2012 年 2 月、2013 年 2 月）
- ・女声合唱団萌え木 Christmas Concert。主催：女声合唱団萌え木、会場：日本福音ルーテル岡山教会（2012 年 11 月）
- ・第 10 回おかやま県民文化祭メインフェスティバル。主催：岡山県・おかやま県民文化祭実行委員会、会場：倉敷芸文館大ホール（2012 年 9 月）
- ・東北の皆さんへ、わたくしたちのうたごえを届けよう!!～フォーレのレクイエム（抜粋）を歌おう。主催：東邦学園歌声サークル、会場：東邦高校（2012 年 5 月）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

名古屋二期会会員、日本保育学会会員、日本音楽教育学会、日本音楽表現学会、日本学校教育実践学会会員、全国大学音楽教育学会会員、日本教育方法学会会員、日本音楽療法学会会員

○自己評価

本学はピアノ初心者が多いこともあり、楽譜理解を促すために授業内で楽典指導を行ってきたが、今年度より教員採用試験も想定した形で、正式に「音楽基礎」として楽典授業を導入した。関連して、昨年に引き続き研究として「保育士・教員養成課程における楽典指導Ⅱ～「音楽Ⅰ」のピアノ表現を深めるために」と題して、愛知東邦大学紀要『東邦学誌』第 48 号第 2 号にまとめることができた。特に、「バイエルの楽譜の読譜力」「バイエルの基本的な音楽内容を理解し表現に生かす力」を目標とした結果、個人差はあるが、「読譜の基礎知識の理解」「音楽的な興味・意欲」「音楽表現をする上での前提となる楽譜の理解」を促すことができたと考える。今後もピアノ教員と楽典指導教員が共同して、教員・保育者養成としての学生の音楽的基礎力育成に努めたい。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

(目標)

全学委員会で与えられた委員を全力で務め、関係者と連携して大学運営に貢献する。教育学部子ども発達学科の教員として担当業務を果たす。大学が関係する学内外や課外活動に積極的に参加する。

(計画)

学生委員会の副委員長、地域創造研究所運営委員として大学の方針を理解し、責務を果たす。教育学部子ども発達学科の分掌に従い、幼児教育コース担当教員として、より良い保育士・教員を育てるべく責務を果たす。愛知東邦大学吹奏楽団の部長として、団の活動状況の把握や学生指導を努めるとともに、大学のよいイメージ作りに貢献する。

○学内委員等

学生委員会副委員長、学生寮担当委員、地域創造研究所運営委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員、愛知東邦大学吹奏楽団顧問（部長、強化指定クラブ）、入試判定委員（前期）

○自己評価

学生委員会副委員として委員長・関係教職員とともに、重点課題について検討し、概ね達成することができた。担当業務である学生寮運営に関しては、寮生との面談を通して、寮の業務・イベント・学業のバランスを取りながら頑張っている様子も把握し、指導することができた。関係教職員の働きで「TOHO learning House」として4年目を迎え、財政的にも安定した運営になり、寮の基盤ができたことは喜ばしい。奨学金関係では、高等教育無償化への対応と無償制度に関わる奨学生等の見直し、学生生活の向上に資する表彰制度について検討を行った。地域創造研究所運営委員会委員として、決して十分とは言えないがシンポジウム開催に関わることができた。愛知東邦大学吹奏楽団の部長としては、面談を通して団の活動状況や学生の様子の把握に努めるとともに、大学のイメージづくりに貢献すべく努力した。学部担当業務としては、入試判定委員、サービ斯拉ーニング担当委員、研究発表、大学祭等を担当して、概ね達成することができた。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

(目標)

従来に引き続き地域活動に参画したいと考えている。学生達と一緒に地域のイベントに積極的に関わり、地域社会の文化向上に貢献する。

(計画)

教員免許講習、高大連携授業、学校音楽コンクール審査委員他を行う。学生とともに地域社会と連携した行事を企画、実施する。

○学会活動等

特になし

○地域連携・社会貢献等

- ・「保育者・教員養成における歌唱表現指導法」と題して教員免許講習講師を担当(2019年8月)。
- ・「子どもの生活や心を豊かにする音楽の世界」と題して高大連携授業を担当(2020年2月)
- ・名東児童館共催で「名東児童館クリスマス会～みんなでハッピークリスマス」を開催(2019年12月)。
- ・サービ斯拉ーニングでは、学校行事の支援、名東児童館・とだがわこどもランの行事など、諸機関と連携を取りながら学生調整・指導をする。

○自己評価

- ・教員免許講習は、毎年改善しながら現場で役立つ内容で、有意義な講習になるように努めた。次年度も同様に検討したい。
- ・高大連携授業は、1・2年生を対象にほぼ同じ内容で行ったが、次年度は、事前に生徒の講座選択の理由を聞いて授業内容を検討し、愛知東邦大学教育学部で学ぶ音楽の授業内容についての確に伝えてい行きたい。
- ・名東児童館のクリスマス会も5回目を迎え、今年は名東児童館と共催で実施することができた。毎年2・3年で開催していたが、今年度は基礎演習の学生11名を中心に、サービスマーケティング、愛知東邦大学吹奏楽団の学生有志の参加を得て開催して、よい結果を得た。1年生での開催を懸念したが、リーダーを中心に、演目も一新して新しいプログラムにも挑戦、準備・練習を重ね実施することができた。学生自身も準備段階では試行錯誤の連続だったが、子どもを前にすることで多くを学ぶことができた。サービスマーケティングの学習意識の定着も一因していると感じた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

VI 総括

教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献、十分とはいえないがバランスを維持しながら行うことができた。音楽教育者、声学家、合唱指導者・指揮者、合唱審査や演奏会企画等を通して、微力ではあるが地域における文化向上に寄与することができたと考える。

- ・教育活動については、今年度から教職再過程認定後のカリキュラム「音楽基礎」において、ピアノ指導と並行して楽典のクラス授業を実施したことで、教員採用試験対策はもちろんのこと、4年間の音楽関係授業において音楽要素理解の上に立った音楽表現理解を可能にすることができたと考える。
- ・大学運営では、いろいろな諸問題処理について十分ではない点が多々あったと感じているが、学部教員、関係教職員との連携のもと、微力ではあるが努めることができたと感じている。
- ・研究活動では、保育士・教員養成課程の表現科目に関する研究課題を成果としてまとめることはできなかったが、継続的な授業研究結果を踏まえ、「基礎演習」の内容改善できたことは嬉しい。
- ・社会貢献では、演習授業を通して学生とともに実践力のある保育者・教員養成をするために、微力ではあるが研鑽に努めたい。自身の専門性を生かした活動を通して、社会貢献に尽力したい。

以上